

【民法】

問一 Aは、Bに頼まれ、自己の所有地（甲地）に隣接するBの所有地（乙地）を、1950年以降継続して管理していた。Aは、1996年8月1日に死亡した。なお、現時点は2007年9月1日であることを前提に答えなさい。

1. Aの単独相続人である息子Cは、乙地がBの所有地であることを知らず、乙地もAの所有地と信じてAの死亡後も引き続いて占有を継続した。Cは、乙地の所有権を時効取得できるか。
2. Aの単独相続人である息子Cは、乙地がBの所有地であることを知らず、2000年4月1日に、甲地および乙地をDに売却した。Dは、購入時点で、乙地がBの所有地であることを知っていた。Dは、乙地の所有権を時効取得できるか。

問二 錯誤と詐欺に関する以下の問いに答えなさい。

1. 錯誤（95条）と詐欺（96条）について、その要件、効果（主張権者、追認の効力、期間制限、第三者の保護）を比較検討しなさい。
2. 錯誤要件も詐欺要件も共に充たした場合、どのような法的処理がなされるか、その根拠も含めて説明しなさい。